

点猫ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

45

私が小中学生の時、家の庭の水やりは兄弟3人の役目だった。父からは「土が跳ねないよう、やさしく水やりするよう」と言われていた。最初のころは、物珍しいので楽しんでやっていたが、毎日となると、だんだん飽きてくる。夏になると蚊も出てくる。

そうなる、早く終わらせたいと思うのが、子どもの気持ち。ジョウロでちんたら水やりしているのが、面倒くさくなる。蛇口を最大にしてホースで放水。そうすると、一気に終わった。その日の晩、父に「ホースで水

農業の素晴らしさ

自然の恵みいただく

をやっただろう」と、こっぴどく怒られた。まあ、怒られるのも当然だ。

群馬県に来て、農業

の方がおっしゃっている方がおっしゃっていないですね。あと、驚いたのは「収穫量を平準化するために、野菜の成長スピードを考へて、①温度が上がっていき、②逆に温度が下がっていき、苗付けの間隔を少しづつ長くしていき、③逆に温度が下がっていき、苗付けの間隔を少しづつ短くしていき」

環境が野菜の成長に大きく影響するのです。あと、ここでは星型やハート形のキュウリを作られているのだが、「ある程度負荷がかかった方が甘みが出るのです」。そっか、人間と一緒だ。

自分が毎日食べている農産物は、農家の方々のこうした努力を支えられていることを痛感した。毎日感謝

が盛んなことを知った。東京では知らなかったことだ。なので、群馬県庁の方にお話しして、農家の方にお話を伺いに出かけた。そこで、いろいろなお話を拝聴した。

皆さんがおっしゃるのは、「農業は自然の恵みをいただく」ということだということ。チーズを作られてい

トウモロコシ、ネギ、タマネギなどを作られている方のお話。「一晩越えただけで、前日より大きく成長しているんです。その時のうれしさといったら、

という。なるほど、道理にかなっている。タマネギ、ニンジン、ナス、キャベツを作っている方のお話。「群馬県は水がきれいだし、土壌も肥沃。生育



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年

7月生まれ。兵庫出身。東京政法大学卒業。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。